P－88

「シティズンシップ教育入門」受講学生の市民性認識に関する一考察

吉田重和[1)]、佐藤裕紀[1)]、武田丈太郎[1)]、五十嵐紀子[2)]、原口彩子[2)]、杉本洋[3)]、西原康行[1)]
1) 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科
2) 新潟医療福祉大学 社会福祉学科
3) 新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】 新潟医療福祉大学では、シティズンシップ教育実践研究センターにおける研究成果を基にして、2018 年度より、保健医療福祉教養科目群にて「シティズンシップ教育入門（1 年次後期）」（以下、同科目）を配当している。

同科目は、受講学生が、現代社会を生きる上で重要な市民性（シティズンシップ）について認識を深め、適切に行動するための資質・能力を身につけることを主たる目的としている。主体的に学習することや他者と協力することにより育まれるこれらの資質・能力は、社会生活の様々な場に共通して応用可能なものであるとともに、看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉に携わる専門職として活躍するための素地となるものでもある。

本研究では、市民性の涵養に関わる先行研究・実践に基づき理念的背景を整えた後、同科目の授業評価アンケート及び受講学生のレポートの内容を検討し、受講学生の市民性認識の一端を明らかにする。

【方法】 本研究では、まず、先行研究・実践の成果を活かし、同科目を通して身につけるべき資質・能力について確認する。その後、受講学生の市民性認識について、2018 年度に実施・作成された授業評価アンケート及びレポートの内容を分析し、その内実を明らかにする。レポートの内容検討にあたっては、KH Coder（ver.3）を用いた計量テキスト分析の手法を主に用いる。

なお、本研究に関連する利益相反はない。

【結果】 市民性に関わる先行研究・実践の検討により、同科目を通して身につけるべき資質・能力として、「能動性・主体性」「対話的な関係性」「他者への影響経験」が主たる要素として挙げられた。

同科目の 2018 年度の受講学生は 31 名であった。うち 21 名が回答した授業評価アンケートでは、「この授業に積極的、主体的に取り組んだ（評定平均 4.52）」「この科目の内容について関心が高まった（同 4.38）」「この科目の内容について理解が深まった（同 4.33）」など複数の項目において高い評価が示されている。

期日までに提出された 29 名の受講学生のレポート（テーマ「この授業を通じて学んだ地域との関わり方」）の内容を集計したところ、分析対象となる語として 11,481 語（異なり語数 1,934）が抽出された。抽出語の上位は、「地域（頻度 357）」「思う（同 190）」「人（同 175）」「松浜（同 147）」「朝市（同 138）」であった。また頻度は少ないものの、「主体（同 9）」や「行動（同 14）」など、先述した主たる要素に直接的に繋がる語も複数抽出された。

図 1 は、抽出語同士の繋がりを示す共起ネットワークである。共起ネットワークは最小出現数を 15 と設定し、Cosine 係数により上位 60 の関係性に基づき作成した。グループワークのテーマに関する語の繋がりが見える一方で、「グループ」と「話し合う」、「問題」と「解決」など、主たる要素に対応した語も生成されている。このことから、グループでの対話や交流が活発に行われたこと、またグループワークを通じて、問題解決に取り組む経験を得た学生が多いことが窺える。

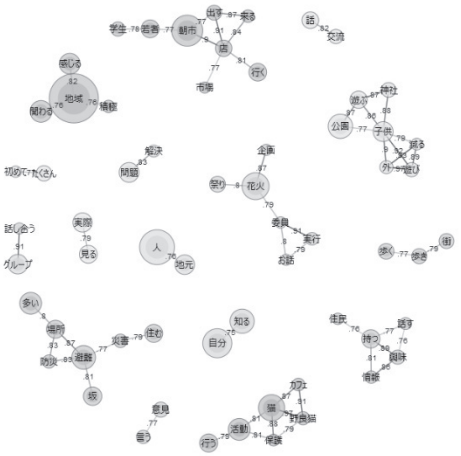

図 1 最終レポート抽出語の共起ネットワーク

【考察】 受講学生のレポートには「地域とのかかわりを自分たちが主体的に作っていくこともでき、それは必要なことではないか」「知りたいという思いがあって行動して初めて地域との関わりが持てる」など、「能動性・主体性」の重要性に関する記述も複数確認された。また受講学生は、積極的に同科目の活動に取り組み、テーマに関する話し合いやグループワークを通じて「対話的な関係性」や「他者への影響経験」にも触れていることがわかる。これらの結果から、受講学生は、同科目を通じて市民性認識を新たにしていると考えられる。

【結論】 「シティズンシップ教育入門」を受講した学生は、授業を通じて「能動性・主体性」「対話的な関係性」「他者への影響経験」の重要性に気付き、市民性に関する新たな認識を得ている。

【文献】

1) 佐藤裕紀: 医療福祉系専門職養成における市民性育成の必要性, QOL サポーター育成に資するシティズンシップ教育プログラムの開発・実践に関する研究 最終報告書兼シティズンシップ教育入門ワークシート, 新潟医療福祉大学シティズンシップ教育実践研究センター: 2-5, 2018.